

2. 各種委員会報告

2.1. 図書委員会

2007年度の中心となった議題は、新和泉図書館建設計画(詳しくは、1 図書館の動き「新和泉図書館」を参照。)、機関リポジトリの制定と運営(詳しくは、3 各種委員会「機関リポジトリ運営委員会」)、電子化へ向けた学術雑誌アンケートの実施について(詳しくは、1 図書館の動き「電子リソース」)、「図書館活用法」の特色GP採択と認定に伴う活動報告、が挙げられる。

年度の主たる審議内容は下記のとおりである。

第1回(4月27日)：①2007年度に取り組むべき課題、②各種委員会員の選出③2008年新規雑誌の公募及び電子ジャーナル化の今後の予定について④ローライブラリー所蔵図書の教員への貸出について

①については原道生前館長から吉田正彦新館長への交代引継に伴い図書委員への協力依頼がなされた。③の電子ジャーナル化の今後の予定については、電子化を希望する継続雑誌アンケートをHP上で行うことを承認した。④ローライブラリーの図書貸出しは7日以内の期間としているが、これを教員にも適用する。

第2回(6月22日)：①2008年度教育・研究に関する計画書について②機関リポジトリの運用について③新規新聞・雑誌の購入について④2007年度電子媒体への切替え

2008年度の教育・研究に関する計画書は、新和泉図書館の建設、教育・研究への多様な支援体制、国際レベルにおける学術交流の促進、基本的図書館機能の維持・発展のための予算措置の確保、等を骨子とすることにした。

第3回(10月5日)：①新和泉図書館の建設について、②機関リポジトリ運用委員会について、③ケベック文庫選定委員会運営内規について、④江波戸コレクション(仮称)の受贈について

①については、吉田館長から山泉和泉委員会委員長への「新和泉図書館の建設について(願い)」(7月23日付け文書)で建設時期、位置、規模について申し入れた事項について承認した。②は前回委員会で機関リポジトリ運営委員会の設置が承認されたことを受け、図書委員・館員以外に専門の教員を置くことが承認した。なお、人選については館長に一任された。③④についてはそれぞれ提案どおり承認した。

第4回(11月9日)：①2007年度特別予算措置に伴う業務計画、②2008年度予定経費要求の基本方針、③明治大学図書館学術・教育研究成果リポジトリ運営委員会について

「2008年度予定経費要求の基本方針(案)」案が承認された。リポジトリ運営委員会の内規及び運営委員について承認した。

第5回(1月25日)：①図書委員会規程の改正について②図書館利用規程の改正の骨子について③図書館基礎資料の選定について

①は国際日本学部設置に伴う図書委員の2名増員による改正、②は雑誌バックナンバーの短期貸出、貸出冊数・期間・対象者の拡大、貸出更新回数増加について承認した。

第6回(3月14日)：①2008年度図書館図書費配分について②2008年度図書館特別資料の募集について③2008年度研究用基礎資料の募集について④2009年度研究用雑誌・新聞新規購入の募集について⑤明治大学学術成果リポジトリ運営委員会運営内規の改定について

①図書館図書費配分については、研究用図書の申込み締切日の提案も含めて承認した。

④は「明治大学学術成果リポジトリ運営委員会」と名称変更することを承認した。

2.2. 収書委員会

3月7日に第1回収書委員会を開催し、図書館図書費配分について審議し、配分案を承認した。

収書委員会に先立ち開催された第2回拡大収書委員会(3月7日)の報告を行った。①新

聞・雑誌委員会報告②拡大収書委員会報告。

議事に移り、2008年度図書館図書費配分表(案)について説明があり、原案通り承認した。基本的な考え方は、①紙媒体資料を電子資料に順次切り替え、新規導入を促進する②費目中「学術専門図書」に国際日本学部を新設する③「学術専門図書」のうち、「研究用基礎」の水準を維持する④学生、院生用の「学習用図書」を充実する⑤授業等に必要な図書の複本購入のために、政策経費として「学習用図書複本購入」を設ける⑥外部資金導入を促進するために高額図書の購入時期に配慮する(文部科学省の補助金助成時期)⑦図書費執行に当たっては、状況に応じて柔軟な運用を行う。

2.3. 拡大収書委員会

2006年度からの活動を継続し、図書館図書費配分のあり方について最終答申提出に向け委員会を2回開催し、討議を行った。

5月25日開催の第1回委員会では、図書費に占める逐次刊行物費上限ラインについて、電子資料費不足時の予算振替元について、研究用図書費と研究用基礎資料費の比重等について各委員から意見があった。

これらの意見を集約し、3月7日開催の第2回委員会でさらなる議論の後、「2008年度以降の図書館図書費配分のあり方について(答申)」を決定し、収書委員会および図書委員会へ提出され、それぞれ承認された。答申の骨子は以下の通りである。

- (1) 研究用図書費の円滑な予算執行と有効活用
- (2) 逐次刊行物費割合は当面図書費全体の5割程度
- (3) 学習用図書費への配慮
- (4) 電子ジャーナル・データベース契約費用は逐次刊行物費、電子ブック購入費用は学術専門図書費及び学習用図書費から振り替え
- (5) 研究用図書費・研究用基礎資料費の運用方法の変更
- (6) 学術専門図書費は研究用基礎資料費に比重
- (7) 和泉キャンパス既存/新学部・新研究科への配慮

2.4. 新聞・雑誌委員会

5月30日、6月15日、9月13日、12月21日、3月6日の5回すべての委員会を生田図書館で開催した。委員会開催と平行して「学術雑誌アンケート」の打合せを、6月28日、7月13日、7月24日の3回にわたって行い、10月1日から一ヶ月間、全学の教員、大学院生を対象として図書館ホームページ上からアンケートを実施した。

2007年度図書予算配分にあたって、今年度から3年間で外国雑誌を電子へと切替えることが理事会から付帯意見として出された。

第1回委員会では、バックファイル購入を受けて『Science Direct』のカレントの電子切替え、既に電子バックファイルを導入している『SpringerLink』の電子切替え、さらに教員からの電子切替えの要望の強かった AIP(アメリカ物理学協会)、APS(アメリカ物理学会)刊行雑誌の電子への切替を決定した。

第2回委員会では、研究環境の整備と雑誌費のコスト削減をポイントとして引続き電子切替え資料の検討が行われ、『CUP』(Cambridge University Press 刊行の電子ジャーナルパッケージ)、『OUP』(Oxford University Press 刊行の電子ジャーナルパッケージ)の購入と冊子の中止が決定し、その他、『Journal of Biological Chemistry』、『Source OECD Books & Periodicals』、『NBER working paper series』の電子への切替を決定した。同時に研究用、学習用、バックナンバーの新規公募雑誌の採択を行った。

今年度から研究用外国雑誌については、学術雑誌の電子切替えに伴い、電子を優先して採択することが公募文章の中に明記されたが、これは冊子を念頭においた従来の募集とは大きく変わるところであり、明治大学図書館資料収集のエポックメイキングとなるものである。

第3回委員会では拡大収書委員会からの諮問に応じ、逐次刊行物費および電子資料費の図

書費に占める割合について、今後5年間に渡る雑誌費のシミュレーションや近隣の同規模他大学の事例などを元に審議を行った。新聞雑誌委員会では具体的な数値を挙げて雑誌費の割合を固定した場合、必要な雑誌が購入できないなど研究・教育に重大な支障を来す恐れがあるので、割合の提示は難しいという結論となった。この結果を拡大収書委員会で委員長が報告した。

第4回委員会は10月1日から実施した「学術雑誌アンケート」の集計結果をもとに今後の方向について審議を行った。アンケートは継続雑誌中止の可否、電子切換え希望タイトル、冊子を残したいタイトル、新規購読電子希望タイトルなどの項目を設け調査を行ったが、継続雑誌の中止は慎重に行う必要があり、アンケート結果をさらに精査するために再調査を行うこととなり、1月に再度ホームページ上からアンケートを実施した。

最後の第5回委員会では再度実施したアンケートの集計結果をもとに審議を行い、絞り込まれた継続中止タイトルを承認した。今回のアンケートで出てきた新規電子希望タイトルと電子切換え希望タイトルについては、次年度の新規雑誌募集採択の参考とすることとなった。また、電子より冊子の希望が多いものは、DDPでの冊子購入をはかり、学生の教育のために冊子を残す必要のあるものについては、残すことが了承された。2007年度公募は研究用、学習用、バックナンバーともにすべて図書委員会で承認され、2009年研究用雑誌・新聞新規公募は3月14日の図書委員会で承認後、3月15日に図書館ホームページから公示した。

2.5. 特別資料選定委員会

第1回募集時は採択資料なし、第2回募集後、11月21日に第1回委員会が開催され審議を行った。その結果、応募資料4点の中から1点・26,300,000円の資料を選定し、図書委員会に推薦した。選定資料は別項「図書館特別資料購入一覧」の通りである。

2.6. アフリカ文庫選定委員会

6月に委員会を開催し、例年通りの新刊選書のほか、1668年刊の古書 ダッパー著「詳録アフリカ」の購入を決定した。

また、アフリカ文庫への大型寄贈受入をきっかけとして、アフリカ文庫への和書受入を審議した結果、今後は稀覯本・寄贈は受け入れることと決定した。ガイドラインは今後整備予定である。

また、10月18日にフランス国立東洋言語文化研究院クロード・アリベール教授を招き「マダガスカルー昨日・今日」と題する講演会を開催し、約100名の参加を得た。

2.7. ケベック文庫選定委員会

12月に委員会を開催し、図書の選定のほか、文庫の広報をかねたケベック関連のイベントを今後開催していくことが確認された。

また、1月22日ケベック州政府国際関係大臣モニク・ガニオン・トランブレ氏が本学を来訪し、文庫の書架を飾るプレートを大臣から学長へ、感謝状を学長から大臣へ贈呈する式典が行われた。あわせて、文庫と、開催中のギャラリー展示「書物で繋がる明治大学とケベック州」の見学も行われた。

2.8. 江戸文藝文庫選定委員会

4月16日に第1回の委員会を開催し、前年度購入した資料の検分ならびに2007年度の課題・運営について協議を行った。

その後は主に、メーリングリストによるオンライン会議の形で協議・選定を行った。ガイドラインに沿って資料の選定を行った結果、十辺舎一九『復讐矢指浦』（栄邑堂、文化3）、徳永素秋『酬寇播州皿屋敷』（西宮、享和3）、山東京傳『御詠長壽小紋』（〔出版者不明〕、享和2）、山東京山編『春宵一服煙草二抄』（竹川藤兵衛〔ほか〕、文化7）など7点の資料を購入した。

2.9. 蘆田文庫選定委員会

これまでの選書方針に従うことを申し合わせ選定を進めた。しかし選定対象である古地図、古地誌類という資料の性格上、それらが市場に出た場合には素早い対応が要求される。このため委員会は日時を設定しては行わず、購入候補資料が市場に現れるごとに委員間で連絡を取り合い、そのつど機動的に購入を検討、決定する体制をとった。2007年度の主な購入資料は以下のとおりである。

- ・行基菩薩説大日本国図(刊本)
- ・崙蘭新譯地球全圖 / 橋本宗吉
- ・銅鑄大日本國細圖 / 玄々堂緑山
- ・天文成象 / 保井昔尹 他6点

また2007年度の特記事項として、中村拓教授旧蔵資料の一括購入があげられる。中村氏は、蘆田文庫の旧蔵者蘆田伊人氏とも親交のあった著名な古地図研究者であり、委員会として旧蔵資料の一括購入を強く推薦した。今後、蘆田文庫と並び明治大学図書館の特色ある蔵書を構成する重要な文庫となるであろう。なおこの購入により、私立大学等研究設備整備費等補助金を獲得することができた。

2.10. 日本近代文学文庫選書委員会

年度の初めに委員会を開催し、2007年度の選書方針・方法を決め、以後、資料の選定を、7月、11月、2月に行い、堀辰雄『美しい村』(野田書房、1934)、北原白秋『邪宗門』初版(易風社、1909)、同改訂3版(東雲堂書店、1916)、伊良子清白『孔雀船』(佐久良書房、1906)、日夏耿之介『轉身の頌』(光風館書店、1917)等50点を購入した。購入した資料は次年度に中央図書館ギャラリー、和泉図書館内で展示・公開する。

2.11. 図書館基礎資料選定委員会

2007年度は3回の委員会を開催した。選定ガイドライン確認後選定を行い、あわせて13点を選定した。選定内容は別項「図書館基礎資料購入一覧」の通りである。

2.12. 新和泉図書館建設連絡協議会

本協議会は、2005年度から設置された新和泉図書館建設推進に関する図書館と和泉委員会との合同会議体である。10月1日開催の第9回協議会では、図書館の建設位置、着工時期について確認し、今後の推進を申し合わせた。その後急遽2008年度予算に新図書館設計費が計上され、これを受けて理事会のもとに和泉キャンパス新図書館建設委員会が設置されることになったことから、2008年3月5日開催の第10回協議会で本会議の任務終了が確認され、協議会を解散することとした。

2.13. 図書館ホームページ委員会

下部委員会の「図書館ホームページ編集委員会」から、年度途中で理事会より図書館新ホームページ作成の特別予算がついたことにより、新規ホームページの作成を行いたい、との報告を受けて12月17日に会議を開催した。

委員からは「ホームページは“オープン志向”であるべきで、ターゲットは学内利用者だけでなく、受験生など利用権限を持たない人たちも含めた幅広い層に設定すべきである」、「デザインは色を効果的に使用すべき」、「言葉を入れて検索すればすぐ目的の情報まで近づける仕組みが必要」という意見がだされ、機能的かつ利用しやすいホームページを囑望された。

その意見を基に、「図書館ホームページ編集委員会」が図書館新ホームページデザイン案を作成し、図書館ホームページ委員会は、それに対してメールによって意見交換後、了承した。その案を上部委員会である「図書委員会」で諮り、承認を受けた。

2.14. ホームページ編集委員会

2007年度は、英語コンテンツの充実を主として活動する予定であったが、年度途中で理事会から図書館新ホームページ作成の特別予算がつけられた。それに伴い、以前より広報部から、大学ホームページと同様にして欲しいとの打診があったことを受けて、大学ホームペー

ジと同様の体裁で、利用しやすく、機能的な図書館ホームページを作成することとした。

まず、大学ホームページと同様のデザインで図書館ホームページのトップページを作成し、配色・カテゴリ・体裁・機能について、2007年11月21日、12月5日、2008年1月11日の計3回の会議とメーリングリストを通して討議を行い、デザイン構成を行った。最終的に調整した構成は以下のとおり。

- ・グラフィカルで見やすい。
- ・大学ホームページとデザインの体裁を合わせ利用しやすい環境。
- ・利用頻度の高い検索ツール類や申し込み等のオンラインツールを配置。
- ・キーワードを入力することにより、「図書館 OPAC」,「電子ジャーナル(学内のみ)」,「Meiji Repository(明治大学学術成果リポジトリ)」の検索が可能。
- ・学外利用者に配慮した利用案内コンテンツの充実。

完成した図書館新ホームページのデザインは、上部組織の「図書館ホームページ委員会」の委員へメーリングリストで意見を頂いて承認され、更に2008年3月14日に開催された図書委員会で承認され、新規デザインにて公開する準備が整った。

その後、サブコンテンツを作成、Google サイト内検索の活用、各種 CGI プログラムのバージョンアップを行って全体を構成し、2008年度の4月に公開する予定である。

2.15. 図書館紀要編集委員会

第13号を刊行した。特集「大学教育の場における図書館の役割」をテーマに取り上げ、4本の論文・報告を掲載した。図書館予算で購入した特別資料について、6氏により紹介がなされた。図書館の特色あるコレクションの一つとして貴重な論文である。シリーズとなっている、学問小史 7, 世界の図書館 9, アフリカ文庫講演会, 蔵書の玉手箱「江戸文芸文庫」蔵書解題, 他を掲載した。職員自主研修グループ3組の報告もある。投稿論文・報告4篇もあり、多彩な号となった。A5判, 271頁, 2008年3月31日刊行。

2.16. 図書館120年史編集委員会

「明治大学図書館史 年譜編 ―図書館創設120年記念―」を刊行した。図書館史の編纂事業は2003年6月に「明治大学図書館120年史編集委員会」の第1回が開催された。委員会は、①創立から昭和20年, ②昭和20年から現代, ③大学院分館(金澤), ④和泉図書館関連, ⑤生田図書館関連, ⑥目次関連の6つのグループに分かれ、10名が資料収集を行い、ようやく年譜編の刊行に至った。

年譜編は本学創立の1881(明治14)年から2006(平成18)年3月までを収めた。年譜編のほかに資料編として、歴代館長一覧、「日誌要略 昭和16年5月26日～昭和19年9月30日」(抜粋), 図書館発行逐次刊行物総の総目次を掲載した。

B5判, 198頁, 2008年3月31日刊行。

2.17. 機関リポジトリ運営委員会(新設)

大学における教育研究活動の成果を電子的に蓄積・保存・発信する機関リポジトリの円滑な運用を図り、リポジトリで公開する学術成果物を計画的に収集し充実させることを目的とする。

委員会は6名の教員と図書館員により構成され、委員間の情報共有・意見交換のためメーリングリストを作成し活用した。

委員会は11月13日に第1回, 2月22日に第2回が開催され、第1回の委員会では、機関リポジトリの概要説明、現状報告を行い、運用開始までのスケジュールを決定した。第2回の委員会では、リポジトリの名称「明治大学学術成果リポジトリ(MeijiRepository)」の決定、「運用指針」が制定され、完成したばかりのリポジトリ広報グッズが委員に配付された。

その決定に基づき、著作権処理作業の業務委託、リポジトリシステム(DSpace)の構築が行われ、2008年3月31日に明治大学学術成果リポジトリ(MeijiRepository)は正式公開されている。